

KTK ひゅうまん 京都

No. 529 2020年12月号

編集／京都障害児者の生活と権利を守る連絡会 〒603-8324 京都市北区北野紅梅町85 弥生マンション内
編集発行責任者／池添 素 電話&FAX(075)465-4310 購読料 1部80円 年間購読料1,000円(送料実費)

- P1 左犬文字 つどめ
- P2 常任委員会から 池添 素
- P3 「ふつうの暮らし」を求めて 大西里江
- P4 車いす視点から社会を斬る 94 矢吹文敏
- P5 代表委員になって
- P6 間もなく結審です 吉田雄大
- P7 2+2=詩 赤富士文兼
- P8 つれづれあらぐさ 中山 恵美子
- P9 背中を伸ばしてひとと一緒に歩む 70 すぎな
- P10 365歩のマーチ 安藤 史郎
- P11 知っ得情報 松本 美津男
- P12 ありがとうございます
狂言役者・茂山千之丞と「福祉」

左犬文字

介護保険20周年

2000年4月に施行された介護保険制度。今年で20周年となる。政府は話題にしたいくないのか、固く口を閉ざしているが、その功罪を問うイベント・特集がメディアや介護団体では盛んに催されている▲ジャーナリストの大熊由紀子さんは保険制度の成立過程を評して「崖の上に、危ういバランスで、やつのことで建てられた家に似ている」(大熊『介護保険物語』)と言った▲その意味は、「介護地獄」ともいわれ、「寝たきり」ではなく「寝かせきり」老人と称された当時の劣悪な介護環境を前にして、霞が関・永田町という政治行政や産業医療、専門職等々の業界の様々な思惑が絡み合い、せめぎ合う中で生まれたこの制度の立ち位置の生まれながらの脆弱さを言い当てたものであった▲介護保険が掲げ多くの介護者がすがった「介護の社会化」への道は開けたのだろうか。介護保険前夜には、行政が主宰する説明会もあれば、市民サイドの討論会もあった。多種多様、賛否両論の厳しい議論の中で船出だったが、だからこそ意味があった▲当時、私は地域福祉現場の社協職員。学区社協や各種団体での制度説明に追われていた。一刀両断にする反対論にもついていけないかったが、バラ色に描くことにも与しなかった。ただ、前夜が少しだけ輝いたのは、議論があったことだ。

つどめ



「やれやれ歳末だ」
渡辺あふる

常任委員会から

〈新たな発展を〉

京障連は2020年11月で50年を迎えました。誕生した1970年から、京都の障害者運動を担い、様々な活動を展開してきました。その時、大人だった人達は、ゆうに70歳を超える年齢となったこととなります。

今年本来なら6月に実施していた京障連の定期総会は、コロナの感染拡大防止のため、文書で議案を提案し、承認していただきました。しかし、50年は大切な節目でもあり、記念の企画と計画し、今後の発展を目指すために組織改革にも取り組みました。

2020年11月23日の祝日の午後から、臨時総会を開催しました。提案された議案は、この間ずっと議論してきた組織改

革です。会長などの役職を廃止

し、複数の代表委員という名称で組織を代表することを提案しました。参加していただいた方からは、「これまでとどのような違いのか」との質問も出されました。加盟団体だけでなく、個人会員の拡大も追求し、特に障

全協でも大きなテーマとなっている障害者の暮らしの課題を、京都でも考える方針を新たに加えることで、これまでと大きな違いをつくるというより、これまでの活動を土台にしてさらに発展させていこうという方針です。参加者にもご理解をいただき、新しい代表委員（松本美津男、大西里江、沖田友子の3氏）を選出しました。自己紹介を載せていますので是非お読みいただき、新しい発展にさら

なるご協力をお願いします。総会のあとは、松本さんの記念講演（21年の本紙で連載）を聞きました。

〈二人のこと〉

大西さんは現在『ひゅうまん京都』に「ふつうのくらし」を連載していただいています。娘さんが成長してからもオムツの保障やウオーターベッドの貸与を、前例のない所から役所に掛け合い実現してきたすごいお母さん。今では当たり前になった

京都市内で一人でも支援学級を希望する児童がいたら学級を設け置けることは彼女が切り開いた道です。

沖田さんは相談支援員。長く相談や支援の仕事を続けてこられました。私がお知り合いになったのは、働き続けるために必要な学童保育所が、障害がある人と入所できない理不尽な状況にあげられた時。京都市役所前で、

大型宣伝カーの上で市長さんに向かって、叫んだ時のこと今でも覚えています。このテーマも、今では当たり前になりましたが、新たな課題が山積みです。

障害児を育てる親として、子どもの豊かな暮らしと家族の幸せを共に実現することめざしたい思いで、今回の代表委員を引き受けてくださいました。ご一緒に前進したいと思います。

〈ありがとうございました〉

長きにわたり、「背中を伸ばしてひとと一緒に歩む」の連載をいただいたいたすぎなさん、12月で一区切りとなります。訪問看護の現場からの報告は、学ぶこと満載でした。足元をしっかりとみて、相手の心の声を聴いて、適切な手を動かす、公私共にお世話になっていきますが、ホントはまだまだ教えてください。ありがとうございます。

池添素（京障連事務局長）



「ふつうの暮らし」を求めて XII

大西 里江

〈変化した福祉サービス〉

福祉サービスは、平成15年から大きく変わりました。措置制度から支援制度に移行となりました。しかし、措置のときにはサービス受けられていたのに、支援になって受けられなくなった人もいます。医療行為のある重症の重度障害者の方です。支援サービスは契約して受けるサービスです。事業所と契約して、初めてサービスを受けることができるということは、契約しないと受けられないのです。私の下の娘も契約できなかったことがあります。

「重すぎます」と、急変する重症なので、何かあったときに責任を終えないというのが理由でした。確かに娘は入院することが多いのです。でも、落ち着いているときもありました。支援サービスを受けられない以上、自宅で家族のみが看るしかないのです。自宅でも病院でも、ずっと娘に付き添って四六時中、一緒に過ごしていました。入院すると基準看護をとっていたら、付き添いは不用というのは建前です。重度で寝たきりで、ナースコールも押せない、意思伝達の難しい方の介護はすぐにはできるものではありません。特に小児で診てもらっていたら、親が付き添うのは当たり前前のことです。

〈レスパイト入院〉

平成20年、レスパイト制度ができました。レスパイト制度とは、特定疾患、つまり難病なら通っている病院で、病状が安定しているときに介護者の負担軽減のために利用できる制度です。早速、申し込みました。



娘が通っているのは救急病院でさらに小児病棟だったので、なかなか許可がもらえず、保健課の方と病院との話し合いの結果、ベッドが空いたときに連絡して利用するならと。突然明日からといわれるかもしれないが、それでも利用したいとお願ひしました。平成21年夏、初めて2泊3日のレスパイト入院をすることになりました。

いつもいるベッドに娘がいない夜、時計の音がこんなにも大きかったと気がきました。1人ってこんなにも静かなんだと思ったことをはっきり覚えています。この年は2回、レスパイト入院させてもらえて、上の娘と父を会わせてあげたり、友人と会うこともできました。

同じころ、入院時見守り支援サービスが開始され、入院が多い娘なのですぐに申込みましたが、かなり厳しいハードルがありました。

私の代わりにヘルパーさんが病院で娘を見守る制度ですが、救急病院なので、感染予防が厳しく、ヘルパーさんに伝染病の抗体検査をしてほしいというのが病院側の受け入れる条件でした。感染症もたくさんあります。抗体検査代は誰がもつのです？ 事業所？ 区？ 市？ 私なのか？ 結果、事業所さんが検査費用を出すことでヘルパーさんに抗体検査を受けてもらって、大丈夫とわかったヘルパーさんのみ娘の支援に入ることで、許可してもらいました。

許可されてすぐ、娘が体調を崩して入院。このサービスは上限があったので、入院が多い娘なので、週2回、1回4時間の利用からスタートしました。

車いす視点から社会を斬る！

矢吹 文敏（日本自立生活センター）

【コロナ元年の年末】

世界中の人々がさまざまな悲哀を抱えたまま、新型コロナウイルスの年二〇二〇年が終わろうとしている。

世界中の航空機が翼を休め、貿易量が激減し、各国の医療現場が崩壊し、わが国ではついに災害派遣と同じレベルで自衛隊の医療班が出動することとなった。

それにしても、世界各国のコロナに対する考え方がこれ程明確に異なり、命に対する対応が驚くほど異なり、マスメディアの情報が想像以上に片寄っていることが明らかに、世界の宗教がコロナの力に対してはほとんど無力であったという現実

は、私にとっても大きなショックである。恐らく、これからの政治（特に国連）、これからの教

育などに計り知れない影響を与えるに違いない。

もちろん、七六歳を越え、さまざまな基礎疾患を持ち、コロナに怯（おびえ）えて滅多に外へ出ることもなく、部屋の中に一人の障害者の言うことなど世界に届くわけもないし、誰も興味を示さないだろう。

とすれば、ヨーロッパの国々で「マスクで人の自由を奪うな」という暴動が起きてみたり、何十万人もの感染者や死者がいるにもかかわらず、大統領自らがマスクもせずに感染源となつて

いることになんの反省もない米国のような国がある。

そうかと思えば、長い間の国内紛争で大量の難民が出ている

バングラデシュやギリシャのモリア・難民キャンプのことなど

は、全くニュースにも登場しないし、コロナの感染者数すらわからない

一方では、コロナの発生源は中国であり、徹底的に中国の責

任追及をしようとする米国。それに対して真つ向から反対し、むしろ米国の貿易商品に付着していたコロナウイルスが発生源

であつて、数ヶ月でコロナを撃退した中国は世界の模範となるべき国なのだと主張する中国。

一方では、医療現場における複数の専門家が「益々感染者が増えている今、ゴーツートラベ

ルを一時的にやめるべき」と提言しているにもかかわらず、まさに神経を逆なでするようなタ

イミングで「ゴーツーを来年夏（つまり、オリンピック？）まで延長する」ということを政府が発表した。

大国主義であれ、先進国であ

ったわが国であれ、少なくとも国民一人一人の命を大切にしようという優しい気持ちは何一つ伝わっては来ない。

毎日毎日「今日の感染者数、重症者数、亡くなった方〇〇人」と言うように、私たちの命は数の一つでしかない。

どんなに優しい看護師さんたちが傍にいたとしても「家族、友人、会いたい人」にも面会できず、病室で一人寂しく亡くなつていく人たちの気持ちを伝えようとする

マスクメディアも無い。私自身、肝臓癌の数値も上がり、近いうちに余命宣告もあり得るのだが、訪問医療の先生には

「今の状況で入院するのは嫌なので、在宅で逝きたい。」との要望を述べた。

こんな中、トランプ大統領は「ワクチン接種を始めるが、米国民を優先する」と明言した。新たな人種差別を想起する年末の不吉な言葉であつた。

代表委員になって

沖田友子です

京都市育ち子年生まれで、視覚障害者福祉施設で三十数年働いてきました。最後の部署は相談で現在は、パート勤務で相談役をさせてもらっています。

私の原点は長男が、現在は指定難病になっている病気であることがわかり、その子育てでいくつもの課題にぶつかったことです。それは息子が37歳になった今も続いています。私自身が人生の終わりをどこで誰と迎えるのかと考えるようになったこの頃ですが、「安心して死ねる」という状況とは言えず、「親がいなくなっても安心」と言える環境ではありません。

これまで養護学校在籍時代は「京都市・障害児の学童保育を保障する会」で、「障害児は学童保育の対象としない」という京都市の条項を撤廃する運動に関わってきました。今、小学6年生まで学童に通う障害児がたくさんいることは、この運動の成果です。働き続けながら、小さい弟たちを連れてのマラソンスピーチ、署名活動、対市交渉等は貴重な学びの連続で、支えてくださった皆さんの思いの一つひとつが私の人生の糧となっています。

現在の課題は「住まい」です。息子が通う法人のグループホーム（以下GH）に入居していますが、週末や夏休み冬休みは自宅に帰ってきます。年末年始は特に長く、ヘルパーさんの力を借りて乗り切っていますが、自宅に帰れなくなった時はどうなるのでしょうか。自宅扱いのGHの運営の在り方はこのままでいいのでしょうか。

課題はありますが、今後も皆さまと一緒にアイデアを出し合いながら考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

大西里江です

現在、『ひゅまん京都』に、「ふつうのくらしを求めて」を連載しています。障害者家族として、どうしたら「普通」に暮らせるのか？日々思案しつつ過ごしております。

今から2年前、2018年、11月の東京。私には、とても衝撃的な二日間でした。初めて知った制度の不備による裁判のお話や、とても厳しい状況の中でも参加されている多くの当事者やご家族。そして、参議院議員会館での話し合い、要望の活動を、毎年されていたことを知り、とてもありがたく、感動しました。何度も訴えていくこと、しっかり要望を伝えていくことがいかに大切かをしみじみ感じました。

コロナ禍でますます人の助けを求めることが難しくなった社会です。人として生きていくために、福祉の充実は不可欠と思っています。今の私には、知ることが一番大事なことです。制度や現状をもっともっと知りたいと思います。

少しでも暮らしやすい社会になるように、いろんな角度から考えられるように、勉強させていただきたいと思います。未熟ですが、これからどうぞよろしくお願いいたします。

間もなく結審です

弁護士・吉田雄大

2016年3月の提訴から早
4年9カ月、いよいよジョナさ
んの補装具費に関する裁判も、
12月14日の口頭弁論期日をも
つて、結審を迎える予定です。
本稿を執筆している12月4日

っていることを、そうしなけれ
ば裁判官と対話ができないこと
で、裁判官が記憶に留めてくれ
ようか。9月28日の本人尋問後今
日まで、私自身このことを日々考
え続けています。

この質問と答えから、裁判官が
普段いかに高い位置から当事者た
ちを見下ろしているか、きちんと
想像力を働かせてくれたのでしょ
うか。判決文ではどう表現される
でしょうか。

現在、最終準備書面の提出を無

ジョナさんは、一目瞭然とも

他者に自分自身を伝えること

まず2020年12月14日

事締め切り前に終え、どんなふ
うに期日を開くか等の会議をし
ているところです。まだ詳細は
明かせませんが、当日は皆さま
「裁判所に来て、自分の目で見
てほんとうに良かった」法廷を
必ずやお約束します。

いえる筋肉の障害に加えて、目
には見えない内部障害をも抱え
ています。手帳では「音声機能
障害」として表現されています
が、肺活量が極めて小さいため
呼吸の確保はまさに死活問題
で、息が続かないだけでなく、
口頭での応答がある程度の時間
重ねると、体調が著しく悪化し
てしまいます。尋問前の事前リ
ハーサルでも終了後ダウンして
しまわれたことから、急きよ裁
判所には上申書を提出して、休
みから、「そうすると、その(座

意欲せず行っています。しかしそ
のことにさえ、ジョナさんは大き
なもどかしさを抱えています。
休憩時間をとった結果、本人尋
問は実質僅か20分間でした。「時
間の使い方はそちらに任せるか
ら、とにかく時間通りに終わりな
さいよ」との姿勢を露わにする裁
判所には思うところがあります
が、本人尋問の中で右陪席裁判官
すよ!

面全体を傾けるティルト)機能を
使っても、特に高いものを見ると
いうのはちよつと難しいというこ
とになるんですか」という質問が
ありました。ジョナさんは「はい、
そうです」と答えました。

先月号の大江弁護士 の原稿に
以下の記述があるのをご記憶さ
れているでしょうか。「裁判官が
見慣れているこの尋問の場で

判所には上申書を提出して、休
みから、「そうすると、その(座

面全体を傾けるティルト)機能を
使っても、特に高いものを見ると
いうのはちよつと難しいというこ
とになるんですか」という質問が
ありました。ジョナさんは「はい、
そうです」と答えました。

まず2020年12月14日
(月)午後3時から、京都地裁1
01号法廷に是非、多数の方にご
来場いただきたく思います。
COVID-19による傍聴者人数制限
は解けていませんが、期日終了後
の京都弁護士会での報告集会は開
けるようになりました。ジョナさ
んの『燃えよ裁判』新作も読めま
すよ!

212 詩

「道行き」

息苦しくて生きづらい世界を歩く

醜いもの、汚いもの、嫌なもの、

辛いもの、腹の立つもの、忌々しいもの

どす黒いものにどす黒いものを掛け合わせ混ぜ合わせた

どろどろのものでいっばいの世界をただひたすらに

堪えられなくなったその時は

好ましいものを詰めこんだ酸素ボンベを使って

息継ぎしながら

あつてないような道行きの、終わりは見えない分からない

楽な道程なんてほとんどなくていつも汗だく泥まみれ

なんでこんなにつらい思いをしなければならぬのか

答えてくれる人はいない

それでも僕らは歩いていく

立ち止まれば吞まれてしまうから

それもとて嫌なことだから

望まなくても歩かざるを得ない

予兆なく否応なしに行き倒れるその時まで

歩みは止まることはない



「クモの巣」

机の上、僕の目の前にクモの巣が一つ

今はもう主のいないクモの巣一つ

かつての主人は飛び去って戻ってくることはないだろう

残された巣だけが細い糸にぶら下がり

空気の動きに合わせて揺れている在りし日の姿。

魂という佳人が住んでいた頃を懐かしむように

空っぽになったクモの器(す)は、ゆらゆらと揺れていた

「なんでもない日」

ペランダから街を眺めている

散り散りになった雲の白と隙間からのぞく空の青

太陽は照つたり陰つたり、心地いい風が気まぐれに吹いてくる

何とも過ごしやすいい秋の一日

ぼんやりと過ぎるその時間は

僕のくしゃみでべしゃりと潰れた

「画面の向こう」

テレビの中、ネットの向こう、紙面の上

綺麗なものが溢れている

何でもある何でも知れる何でもわかる

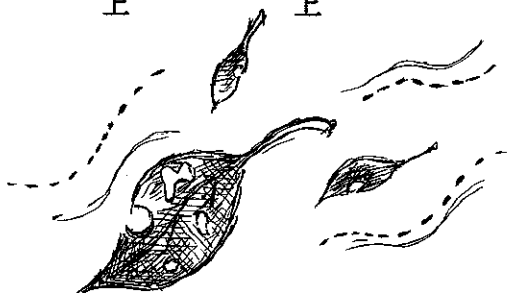
でもそれは本当？作り物？真実？嘘？

テレビの中、ネットの向こう、紙面の上

綺麗なものが溢れている

何でもある何でも知れる何でもわかる

嘘と本当を分ける基準。それを見抜くための目印以外はすべて



つれづれあらぐさ

あらぐさ福祉会は長岡京市にある社会福祉法人で、障害のある人たちの暮らしを支える事業を行っています。1986年に無認可の共同作業所を開所して以降、日中の通所から生活の場、ヘルパー事業所等、地域で暮らし続けるために必要なものを作り出してきました。今回の連載開始にあたり、「障害者の喜びと悲しみ、家族の喜びと苦悩、職員の働き甲斐と先が見えない苦悩…そういうことが浮き彫りになればと思います」とお話をいただきました。日々自分が経験していることや感じていることを通して、それぞれの一場面を綴れたらと思います。なお、内容については個人情報に配慮して構成しています。

場面⑫ テスト中、周りのペンを

走らせる音に焦る

今年は、これまでの中で一番文章を書いた一年間でした。業務での書類作成に加え、京障連や全障研の文書、それから専門学校レポートがありました。「つれづれあらぐさ」の原稿は、通勤や移動の電車の中で「あれを書こうかなあ」と思い浮かぶことが多かったです。考えているうちに、降りる駅で気づかず通過してしまふということもありました。

この秋まで専門学校通信課程の学生だったので、10本以上のレポートを書きました。自宅学習は、テキストを読んだ上で課題にそってまとめます。レポートは手書きでの作成なので、原稿用紙に一字ずつ書くのは骨が折れました。一気に清書すると手が震えるほど疲れ、地道に書き

進めておけばよかったと心底反省しました。

夏にはスクーリングがあり、講義や演習に加えて科目ごとのテストを受けました。授業中の「ここ、テストに出ます」という先生のセリフ、テスト前の「ここってどういうこと?!」という声が飛び交う教室内の雰囲気は、久々で新鮮でした。何より、テスト中に答案用紙に記入するカリカリという音が、こんなにも人を焦らせるのかと再発見しました。何歳になっても、テストは緊張するものようです。

今年は新型コロナウイルスの影響で、冷房をかけたつ窓を開けての授業、別教室でのリモート講義、フェイスシールドをつけてのグループ演



習等、これまでにない経験となりました。マスクをして、さらに目の前に透明のカバーがある中でコミュニケーションは、お互いの声が届きにくかったり、表情が読み取れなかったりで、なかなかのストレスでした。

働いている中で何となく感じていたことを、学びを通して自覚したのが今回の収穫です。例えば、関係性を通して行う援助、援助専門職としてのあり方、社会や所属機関との間で感じるジレンマ等についてです。どうしようもない壁に気持ちが揺らぐ瞬間、それは自分だけが抱える思いではないと知り、ある意味救われました。学び続けることで世界が広がり、自分が変わっていくのだなあと感じます。

当初は一年間の予定だった「つれづれあらぐさ」は、来年も連載を継続することになりました。これからも、日々の一場面を綴っていききたいと思います。

中山 恵美子（あらぐさ福祉会）

背中を伸ばばつひつひつと一緒に歩む

すぎな (訪問看護師)

70 アマビエ

新型コロナウイルスの流行の陰でひそかに流行ったものの中に、「アマビエ」がある。京大付属図書館

に江戸時代の瓦版があり、その中に疫病を抑える妖怪として、記述が残っているらしい。豊作や疫病の流行を予言する妖怪

で、その姿を写して持っている。と疫病から免れると信じられていたらしい。今風のイラストに描かれているような姿でくちばしのある人魚のような姿をしている。今年、新型コロナウイルスの感染が広がったことで、疫病退散の願いを受けて「アマビエチャレンジ」という形でツイッターで拡散した。緊急事態宣言が出てすぐ、「アマビエどら焼き」なるものが、街中で売られていたと言って、スタッフが買ってきて

くれたことがある。その時は、

何でも商売にしてしまう逞しさ

を笑っていたが、その後、厚生

労働省まで、WEB版のコロナ

感染予防の啓発イラストにアマ

ビエを使っているのを知り、S

NSの影響力の高さに驚いた。

「ケアマネジャーさん、ちっ

とも来てくれはらへん。なんや

わからんけど、用事は電話で済

ませて。事務所はすぐそこやの

に。」ケアマネジャーさんの訪問

がないのは、新型コロナウイルス

の患者さんが再び増加してきた

ため高齢者への訪問を避けてい

るからで、理由は事務所から説

明されていて、決して「なんや

わからん」わけではない。それ

でも奥様の不満は収まらない。

「毎月、要らんと言っても何や



かんや言ってきたのは、こうなったら冷たいもんや。」という奥様ご自身も、「この近所は昔からの人ばかりで、近所づきあいがうるさいところやねん。もし、家族にコロナが出たとなったら、どんなこと言われるか。」と不安をのぞかせる。そして、玄関に「娘が持ってきてくれたんやで、」と額に入れて飾っているアマビエの記事が載っている瓦版のコピーを指さす。その割に、私たちが訪問してもマスクを忘れていたり、口うるさく言われているはずの感染予

防には手抜きが多い。高齢なので忘れやすくなっているのは仕方がないかもしれないが、奥様の不安は、感染症そのものよりも、風評による近隣からの精神的な攻撃への不安の方が大きいようだった。

近所の神社の御朱印にも、アマビエが描かれているものが置かれていている。最近よく行くお寺の御ふだにも書いてあって、ここまで大安売りだと有難味があるような、ないような。

でも、感染症への対応がここまで長引いてくると、用心深い人でも気が緩んできてついうっかりすることもありそうで怖い。コロナウイルスも種の保存をかけているのか？とにかく持久力がすごい、と感心している場合ではない。

人とコロナ、どちらが粘り強いかを試されている。

365歩のマーチ



9 父はやみつけなじ...

朝の保育園の送りは父親の役割。本格的に寒くなってきた朝、あたたかいふとんから出たくないなあ、もつと寝たいなあ...の気持ちを抱きかかると押し込んで、親子ともぎりぎりの時間に起きます(母はえらいもので早くから起きて洗濯などをしてくれていますが...頭が上がりません)。ゆいちくんは起きてすぐに朝ごはんを食べべます。時には朝ごはんを食べながら検温、着替えもして時間短縮。近頃は「くつした取ってきて」と言う自分で着替えを入れている衣装ケースへ。「これがいい」と自分でくつしたを選ぶこともありません。上着を着て帽子をかぶって準備万端。飛び出るようにいざ出発。ほんとうは空気の澄ん

だ朝一番、のんびりと一緒に歩いて保育園に行きたいところですが、いつも父の電車の時間にぎりぎりなので抱っこで行くことがほとんどです。小走りの抱っこはなかで、いろんなものを眺めているゆいちくん。最近では空を飛ぶ鳥が大好きで、カラスやすずめが空を飛んでいる時に、「ゆいちくん、ばたばたしているよ」と指をさして教えると、空を眺めて「あー! あー!」と叫びながら手をバタバタと激しく動かしています。少し前は、犬や鳥など見つけると指をさして喜んでいましたが、今は騒いで大喜び。ゆいちくんの頭のなかに「あ、あれ知ってる!!」ということが広がってきているようです。

※

夜は、ごはんを食べながら父の帰りを待っているゆいちくん。ごはんを食べた後はお風呂の時間です。少し前までは「お風呂入るか」と言うと、「待ってました」とばかりに父の指を握って自分からお風呂に歩いて行っていました。

「が。今は「お風呂入るか」と言うと「いやいや」と言っていて泣きながら母の下へ...。」「お風呂でばしゃばしゃしようよ」と遊びに誘っても「いやー」がヒートアップするばかり。また、日によって父と母が交代でしていた寝かしつけも、父が「おやすみしよか」と言うとき「いやー!」と首を横に振りながら泣いて逃げ、母の手を引いて寝室に母を連れていきま



す。どうやら、なんでも「かあかがいい!」のようです。今まで「○の時には父(母)」とある程度決めていたことを自分で崩しながら、父と母の二つの選択肢があることに気づき、父に誘われたけど...でも母がいるのだから「とお

ととではなくてかあかと!」と揺れながら自分で決めていくようです。小さなからだで一所懸命いろんなことを考えながら毎日生活しているのだなあと、さみしさと同時に尊さを感じています。

朝の保育園の登園の時間は、家にいる時とはちがって「いやー」がまったくなく、道々発見を楽しんでいます。わずか10分程、一日で一番ほっこりする時間となっています。

安藤 史郎(あかつきひばり園)

知っ得情報

介護（福祉）タクシー（下ー1）

松本 美津男

10月号で紹介を始めたとき、ざっと府下の状況も調べてみたところ府下の介護タクシーは少なかったので3回で府内事業所すべて紹介できると考えていました。けれども、念のため府下の状況を調べ直したところ、もう少しあることがわかりましたので、今回は京都市南区と京都府下4市のエリアにある事業所を紹介し、残りを次回2月号で（下ー2）として紹介することになります。

〈南区〉

都タクシー 671-6101 アネスト介護タクシー 384-0873

介護タクシーすまいる 661-7803 介護タクシーCがる 921-6770

介護タクシーワンダフルケアサービス 080-6158-4868

京都運転ボランティア友の会 682-0204

有限会社ハニーレモン 671-8237

〈向日市〉

介護タクシーややえ 090-1678-0338

〈長岡京市〉

株式会社まどか介護福祉タクシー 0120-56-7575

安心・安全しろはと介護タクシー 075-954-6810

〈八幡市〉

京なん介護タクシー 075-982-8118

〈城陽市〉

京都サポートサービス 090-5978-0447 あかま介護タクシー 090-1596-1365

あなたもぜひ
仲間に



サロン・サークル・地域活動展開中
生活支援スタッフ(資格不要)募集中
介護職員(資格要)募集中

ひとりぼっちの高齢者をなくそう
元気な高齢者はもっと元気に

「よろず相談」承ります(随時)



あなたも支える存在に

京都市北区紫野東野町1-5
電話075-432-3636

命の平等をかけた、
無差別平等の医療と
福祉の実現をめざす

働くひとびとの医療機関です

看護師・薬剤師・医師や医療技術者を

目指す方をご紹介ください



京都民主医療機関連合会

〒615-0004 京都市右京区西院下花田町21-3 春日ビル4階

TEL 075-314-5011(代) FAX 075-314-5017

Home Page <http://www.kyoto-min-iren.org>

e-mail: info@kyoto-min-iren.org

ありがとうございます

年会費 安藤和彦・大西洋子・桐澤優子・京都府生活協同組合連合会・
久津間純子・竹内三紀子・田中智子・辻司郎・坪井道雄
ちひろカレンダー合計75部 (敬称略・2020/12/10)

狂言役者・茂山千之丞と「福祉」

2020年12月4日は茂山千之丞さんの没後10年になります(10年12月4日死去)。87歳でした。観客として、舞台を愉しみました。演出家としての才能の一端にも触れることができました。社会に向かって、まっとうな物言いを続け、見識を示した姿を見せてもらいました。「伝統芸」の世界に新しい風をもたらしたのは、千之丞の才能と胆力があつたればこそです。狂言役者としての千之丞は、考えぬかれた演技、別の言葉でいえば理知的ともいべき演技を繰り広げました。

☆

NHK ブックスに、糸賀一雄が書いた『福祉の思想』があって、滋賀県の知的障害者施設を狂言師がたずねる記述があります。この施設では、狂言師を招くことに消極的な意見があったといいます。狂言は伝統芸、難しくて、知的障害者は理解できないのではということです。そんな消極的な意見を押し、狂言公演が実現しました。そんなことを千之丞さんに僕が言うと、それにはおじ(茂山忠三郎)と自分が参加したという返事です。そういう記憶もあって、共同作業所の催しに千之丞を引っ張り出すようになりました。

1998年、四条烏丸の西北にあった金剛能楽堂で、「反核・平和のための能と狂言のつどい」を開いたことがあります。畳敷きの客席にも人が入っていました。500人はいたでしょうか。観世栄夫が能を舞い、千之丞らが狂言を演じました。このときの能は多田富雄さんの作品『望恨歌』(ぼうこんか)でした。『望恨歌』は、朝鮮半島から日本列島に強制的につれてこられた人の恨みを描いています。観世栄夫がつける面がくるくる変わるのを僕は見つめていました。異郷につれて来られた人のやるせなさが伝わる名演でした。

上京ワークハウス20年を記念する狂言会のことです。会場(京都造形芸術大学の春秋座)があふれかえるような人が、決して安くない(演ずる人の取り分は少ない)入場料を払って参加してくれました。演目は、梅原猛作、茂山千之丞演出のスーパー狂言『王様と恐竜』。トットラー王に扮した兄の茂山千作の芸が、さえていました。会場、出演者(茂山一門)、原作者(梅原猛)、ポスター制作者(横尾忠則)、演出家(千之丞)のどれをとっても、超一流の狂言を、障害者施設が主催したことは驚きをもって迎えられました。千之丞の「芸当」でした。

南アフリカ共和国は、アパルトヘイト体制を敷いていました。その国から放逐された舞台人が「アマンドラ」というグループをつくり、京都府立体育館で5000人の公演をすることになりました。彼ら数十人を歓迎する会を催すことになったとき、千之丞さんはこれに出演することを了解してくれました。日本語で演ずる狂言を、日本語を解しないアマンドラのメンバーが愉しんでくれました。1990年のことです。

井上吉郎・本紙編集長